

摂津水都信用金庫 鳥飼支店の取引先約 20 社が 産業技術総合研究所を見学 活発な質問や相談

摂津水都信用金庫鳥飼支店の取引先である中小企業経営者ら約 20 社の経営者や技術担当者 21 人が 5 月 21 日、和泉市の大阪府立産業技術総合研究所（略称：産技研）を訪れ、所内の施設を見学しました。参加者は製造業者が多く、説明にあたった職員に熱心に質問したり、相談を持ちかけていました。

研究所は技術移転が目的

産技研は、中小企業などに対する技術支援と大阪産業の技術競争力強化を目的に設立された技術開発の推進拠点。「開放と交流」をモットーに「技術の移転」を目指しており、研究職員は約 140 人。数千万円から 1 億円を超えるものまで 500 種類の設備機器を備え、研究所自身の研究のほか、受託・共同研究、外部からの依頼試験、技術相談、人材育成などに応じ、中小企業や大学などに施設や設備の開放も行っています。



研究職員の案内で機器類の説明を受ける参加者たち

鳥飼支店の営業エリア内には、ものづくり系の中小企業が多く、大川昭賢支店長らが取引先に呼びかけてこの見学会を催しました。

それぞれが産技研前に集合。会議室でまず、研究所の概要について、企画総務部の水谷潔総括研究員らから説明を受

けました。

水谷さんは「企業との共同研究は、外国では大学で行われており、（企業が利用しやすい）このような開かれた公設研究機関はほとんどなく、海外からも評価されています」と PR しました。

見学は 2 班に分かれて係員の説明を受けながら行われましたが、自社が関係

する設備・機械の前ではどの参加者も熱心に耳を傾け、質問が相次いでいました。

さっそく相談、分析依頼する参加者も

化粧品のプラスチック容器の表面に、各種の印刷をしているプラスチック成型会社の社長は見学の後、さっそく、職員に材料分析について相談していました。

同社では、容器に印刷しても、すぐにはげ落ちてしまうケースがあるということで、その原因がインクにあるのか容器側に付着した異物のせいなのかが不明。原因がはっきりしないため、欠陥が出た商品に対する数十万円の損害を同社で負担してきました。

そこで、原因究明ができるかどうか産技研の職員に聞くと、原因を突き止められる高度な分析機器があることがわかり、「依頼しようと思います」と話していました。分析検査料も数万円くらいですみそうので料金のほうにも安心した様子でした。また、大川支店長によると、見学後は参加者同士が交流をもったり、取引先に産技研を紹介するなどプラスアルファの効果も出ています。

「北摂の企業ももっと利用を！」一番少ない北大阪の利用

産技研を利用する府下の中小企業の割合は大阪市が32%、泉州21%、東大阪18%。しかし、北大阪はわずか6%ということです。

水谷さんは「産業技術総合研究所は、はるかかなたにあるという印象をお持ちだったかもしれませんが、車で高速道を走ってくると1時間足らず。『予想以上に速く来られた』と思われたのではないのでしょうか」と話し、鳥飼支店のある摂津市など北摂方面の企業がもっと、利用してくれるよう呼びかけました。

中小企業側の技術ニーズと、産技研のシーズのマッチングを推進するのが目的の産技研だけに、最近では各地の商工会議所などに出向いて技術説明会等も開いています。「訪ねてみて、『我が社も利用できることがわかった』という中小企業は少なくない」と職員は話しています。相談、見学などを希望される方は産技研か弊社、大阪彩都総合研究所へご連絡ください。

大阪府立産業技術総合研究所(和泉市あゆみ野 2-7-1)

TEL:0725-51-2518(技術普及課) 2525(技術支援センター)

ホームページ: <http://tri-osaka.jp>

アクセス:北摂からは近畿自動車道、阪和自動車道の岸和田泉 IC を降りてすぐ

まとめ 株式会社大阪彩都総合研究所 橋本 剛